

## ギターと私(5)－大学時代②

大学生時代のギターのことを語るならば、「クラシックギタークラブ」(以下「クラギタ」と略す)のことは避けて通れないだろう。とりあえず、回生ごとに思いつくまま記すことにする。

一回生(関西の大学では、一年生のことをこう呼ぶ)の時は、他の一回生と同様、「カルカッシギター教則本」を練習した。先輩が後輩を教える形である。場所は、産業社会学部棟である「学而館」が使われ、何と机の上に座ってギターを弾くのである。確か4階の大教室だったと記憶しているが、終了時には、内政部長(三回生が務めるサークルの役職の一つ)の司会で、ミーティングがあった。16時30分から2時間ぐらいの活動時間だったかと思うが、これが週に二日間あった。終わりのミーティング後は、喫茶店等に場所を移して、「班別会」と称する集まりがあった。下宿に帰っても一人ポツンとしているだけだったので、この会は楽しかった。入部後しばらくすると、さらにそれから先輩の下宿を訪ね、マージャンをやったりもした。

二回生の思い出としては、演奏旅行が記憶に残っている。岡山県の津山市と香川県の高松市、そして名古屋市の三か所であった。わが大学の演奏会は、第一部が「クラシック合奏」、第二部が「クラシック二重奏・独奏」、第三部が「フラメンコ」、第四部が「ラテン大合奏」であった。我々二回生の出番は第一部と第四部しかなく、他の時はドアボーイもやった。どの会場もほぼ満席の入りであったが、今から思えば、先輩方やOBの方々の、並々ならぬご苦労があったものと思われる。第二部には、主に三回生、四回生が出演したが、「アラビア風奇想曲」(タレガ)、「悪魔の奇想曲」(テデスコ)、フーガ イ短調(バッハ)、「南のソナチネ」(ポンセ)等、中々の演奏曲目であり、レベルも高かった。その中には、現在プロとして活躍している方もいる。また、関西学生ギター連盟の主催だったか、故渡辺範彦氏のレッスン会が開かれ、「幻想曲 Op.7」(ソル)をみてもらったこともあった。

三回生になると、クラシックの技術部長という大層な役を頂き、ほぼ毎日サークル活動に出る毎日が続いた。一回生の時に触れた「カルカッシ」が週二回、「クラシック合奏」が週一回、「クラシック二重奏・独奏」も週一回、「ラテン大合奏」が週二回となれば、日曜日以外はすべてサークルで埋まることになる。「ラテン大合奏」の指揮者も兼任していたため、本当にハードであった。誰かが冗談で、「立命館大学体育学部所属クラギタ部」と呼んでいたが、確かに体力を要するサークルであった。

その反動もあり、四回生の時はサークルを退部してしまった。一つには、単位習得がままならず、4年で卒業することが難しかったこともある。また、夏休みに下宿を払い、9月以降岐阜から京都まで通ったこともあった。とにかく、私は、クラギタのOB会名簿には載っていない。今から思えば、四回生の時もやっておけばよかったと思うが、その時はその時で、精一杯であった。しかしながら、卒業してから4回ほど行われているOB会に、私はすべて出席している。それどころか、幹事役まで務めている。過去のわがまを赦して受け入れてくれた、寛大な同級生や先輩諸氏、後輩諸君には、心から感謝している次第である。「本当に申し訳なかった」と、改めてお詫びする。

(2019.11.21 記)